

利用者処遇

当事業所では、支援の内容を①SST 小集団（ソーシャルスキルトレーニング）②学習療育を掲げています。お子様と担当指導員にて1対1の療育と他のお子様と関わる小集団療育を行っており、その趣旨について説明いたします。

①SSTについて（放課後等デイサービス・児童発達）

SSTとはソーシャルスキルトレーニングの略で、社会の中で人と人との関わりながら生きていくために欠かせないスキルを身に付ける訓練のことを指します。社会性の乏しいお子様たちに対して人とどのように関わっていくかの前に、まずは個々の思いを大切に尊重する事や言葉の使い方を学んでもらいます。

自閉症の特性として空気が読めない事があると思います。空気がよめなかったら、思いがけない場面で発言してしまったり、よく分からない言葉や行動をしてしまいます。SSTの療育をしていく中で適切な言葉や、文章の作り方、相手の気持ちの汲み取り方を伝えていきます。

障害があるお子様達に伝える前に、教える伝える側のスタッフがSSTの知識を付けておかなければなりません。そこで、岡山市内の事業所では月に一度全スタッフが集まりSST等を含めた勉強会を実施しています。その中で先輩スタッフからの教えを受けたり、SSTの本を参考に勉強をしたりしています。また、実際に支援に入っている時に困ったことや、「〇〇したら伝わりやすかった」など意見交換も交えています。事例検討では、管理者やリーダーから実際にSSTの内容のお題を出され、それを基に他のスタッフがスキルトレーニングを行っていきます。勉強会を行うことでSSTをスタッフの中に取り入れ、より良い支援を行っていけるよう努めています。

障害があるお子様に限らずですが、社会の中でお友達や家族など人と関わる中で気持ちが衝突してしまう事は誰にでもある事だと思います。その時にどう行動できるか、どんな言葉を相手にかけられるかが大切だと思います。お子様の好きなこと、楽しいこと、得意なことを一緒に探しながら、夢中になれる、満足出来る、楽しい気持ちになれるようにコミュニケーションや制作活動を取り入れていき、担当指導員や、他のお子様とコミュニケーションを取りながら、自分の気持ちを伝えられる、他者に気持ちを向けられるように導いていきます。

②学習療育について（放課後等デイサービス・児童発達）

学校教育において支援級に所属していても学習の理解が出来ないまま取りこぼされているケースが多く見られ、また障害の特性から一度学習していても定着が出来にくいお子様も見られます。学校での教室からの飛び出しや、何らかの理由で不登校気味になる等で、教室で学習をするに至っていないお子様も少なくありません。多くの保護者の方がそのお子様の特性により学習困難を抱えて悩んでおられます。そのような障害や特性に着目し、なぜこのお子様は学習出来ないのか、なぜ習得できていないのか、なぜ学校に行けないのか等を保護者の方から成育歴や学校での様子を伺い発達

検査の結果を参考にして実際のお子様の様子を見せて頂きながらその原因を探り、そのお子様一人一人に対する個別支援計画を作成し、そのお子様に合った対処法で個別の対応をしていきます。

また、学習支援を必要としているのは小学生からではなく近年では小学校に上がる前の、未就学児から大いに必要とされています。(物事に理解をする事が出来る3才頃からのお子様が多い)

3才児からは幼児後期となり、自発性が芽生えてきます。そこで、学習療育をすることによって小学校入学へ向けてのスキルアップや発達の遅れを取り戻していきます。一人一人の特性に合った支援の仕方を保護者と共に探していき、支援終了後には保護者の方にその日の支援内容や様子を伝え共有をしていきます。

そして、担当指導員とお子様の信頼関係を築いていく上で、友達のような第二の親のような存在になり何でも相談し合える関係性を作っていきます。実際に岡山市内の事業所で家出や親への反抗がある子に対し、本事業所が保護者の方とお子様の間に入り関係性を緩和したり、お子様に対して担当指導員が心のケアで相談に乗ったり感情を共感する事で落ち着いていく事が出来ています。心の状態を療育することでやっと学習に向かうためのスタートラインに立つことができます。

支援を始めてからも来る気持ちの状態に配慮し、そのお子様にとっては学習のバリアフリーのように「分かること」「出来ること」を繰り返し行い、しっかり褒めて自己肯定感を高めていき自信と意欲を培っていきます。

その様に支援を取り組んでいき、学習の仕方や学習の楽しさを感じる事が出来るようになったお子様は学校に行けるようになったり、飛び出しが減ったり、落ち着きがでたりという好ましい変化が見られます。一人一人の特性に合わせて個別に関わっていく事が大きな要素になっていると言えます。

③今後検討していること

パソコンとプログラミング用ロボットを使い、子どもたちとどのように、プログラムすればスタートからゴールまで導くことができるか、また、現在日常的に電子器具を使っているのを将来を見据えてのタイピングの練習やPCの使い方等の取り入れを考えております。

④イベント

月に1回または2回、STEM教材と言われている「グラビトラックス」というプログラミング的思考効力のある知育玩具を取り入れ、大きなコースと自由設計でスタートからゴールまでのコースを子供たちで作し、子供たち同士でコミュニケーションを取り、また、協力し、できたことへの達成感を味わえる事を目標に考えております。